

都道府県・指定都市番号	4	都道府県・指定都市名	宮城県	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	道徳
研究課題	○学習指導要領において、各教科等の特質に応じた適切な道徳教育を行うことや道徳教育の全体計画に各教科等で行う道徳教育について指導の内容及び時期を示すことになったことを踏まえ、自校の道徳教育の重点目標に基づく各教科等の特質を生かした道徳教育、それらの要となる道徳の時間の指導方法等の研究 (ア) 学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫 (イ) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるいじめ問題への対応 (ウ) 各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫 (エ) 全教育活動を通じて行う道徳教育の要となる道徳の時間の指導の工夫 (オ) 「私たちの道徳」の効果的な活用の工夫				
学校名 (児童数)	しろいしりつおおかさわしょうがっこう 白石市立大鷹沢小学校 (89名)				
所在地 (電話番号)	宮城県白石市大鷹沢三沢字五丁目 24-1 (0224-25-3714)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://ootakasawa-e.shiroishi-c.ed.jp/				
研究のキーワード	自他との対話 事前読み 探究の対話 書く活動				
研究結果のポイント	○「事前読み」をさせたことで、児童に資料の内容理解と、課題意識を持たせることができた。 ○「探究の対話」により、児童の主体的かつ多面的・多角的に考えを発表する姿が見られた。 ○「書く活動」に取り組ませたことにより、児童が自分の考えを明確に持って、主体的に対話に臨んだ。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

思いやりとたくましさを持つ児童の育成
～自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して～

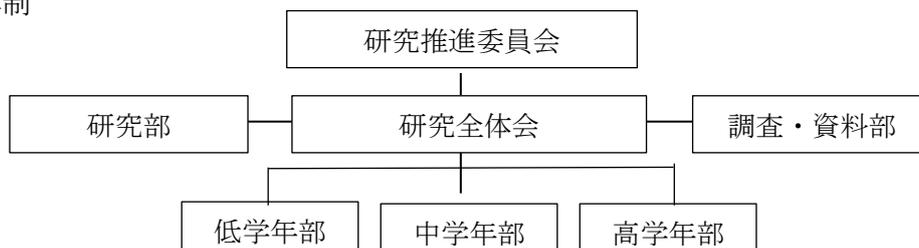
(2) 研究主題設定の理由

本校は、児童数 89 名の小規模校である。明るく素直な児童が多く、縦割り活動等で異学年交流も盛んで、休み時間には異学年で仲良く遊ぶ姿が見られる。一方で優しい気持ちがある反面、利己的な態度をとってしまう児童も見られる。その他に、周りと同じでない不安に感じたり、どこか自分に自信がなく周りに流されて行動したりするところや、正しいことを言えなかったりする姿も見られる。

先が予測不能な社会情勢において、絶え間なく生じる新たな課題に向き合い、自分で考え、また他者と協働しながら、よりよい解決策を生み出していく力は、更に必要になってくるであろうと考える。そのような中、本校では、多様な考えを受け入れる姿勢「思いやり」と、その時々で柔軟に自分の考えを持つ姿勢「たくましさ」の育成が必要と考え、本研究主題を設定した。副主題にある「自他との対話」とは、自分と向き合い、明確に自分の考えを持たせることをねらいとした「自分との対話」と、友達の考えをしっかりと聞き、考えを交流し合うことをねらいとした「他者との対話」の二つの対話のことである。また「考えを深める」とは、多様な考えに触れ、これまでの自分の考えと他者との考えを比較したり、自らの考えを多面的・多角的に思考したりすることと捉えた。

以上のことから本年度は、自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して、思いやりとたくましさを持つ児童の育成を目指してきた。

(3) 研究体制



本校の研究体制は、校長，教頭，教務主任，研究主任からなる「研究推進委員会」の下，全教職

員で「研究全体会」を月に1回行い研究を進めてきた。また、主に授業の準備や教材の開発を行う「研究部」と意識調査の集計と分析を行う「調査・資料部」のいずれかに全教職員が所属した。授業研究は「低・中・高」の学年部に分かれ、共同研究を進めてきた。

(4) 1年目の主な取組

平成 29 年度	4月	基本構想の立案, 年間計画の決定, 年間指導計画作成
	5月	第1回 研究授業【6学年】「相手の立場に立って親切に」B-(7)
	6月	第2回 研究授業【2学年】「くつ」B-(6) 指導主事学校訪問(C訪問) 第3回 研究授業【3学年】「同じ仲間だから」B-(9)
	7月	指導主事学校訪問(B訪問) 第4回 研究授業【1学年】「くまさんのなみだ」B-(9) 【6学年】「銀のしよく台」B-(11)
	8月	第5回 研究授業【4学年】「オトちゃんルール」B-(9)
	9月	第6回 研究授業【5学年】「健太さんがなぐったのは」B-(11)
	10月	第7回 研究授業【6学年】「ちゃんとやれよ健太」B-(7) 先進校視察(仙台市立山田中学校) (深谷市立藤沢小学校) (筑波大学附属小学校)
	11月	指導主事学校訪問(C訪問) 第8回 研究授業【4学年】「あの子」A-(1) 先進校視察(石巻市立大街道小学校) (大崎市立古川第一小学校)
	12月	公開研究会 第9回 研究授業【2学年】「おれたミラー」A-(1) 【3学年】「おしえてウルトラマン」A-(5) 【5学年】「トマトとメロン」A-(4) 道徳研修会 第10回 研究授業【1学年】「ぼんたとかんた」A-(1)
	1月	先進校視察(南三陸町立名足小学校) 出前授業(宮城教育大学附属小学校) 【3学年】「チョコレート」C-(17) 研究授業【4学年】「心をつなぐひとこと」B-(8)
	2月	先進校視察(京都市立光徳小学校)
	3月	研究のまとめ(本年度の成果と課題のまとめ, 次年度に向けて)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- (ア) 学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫
 - ・学校教育目標に基づいた道徳教育全体計画別葉の作成と実施
- (イ) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるいじめ問題への対応
 - ・「学校生活アンケート」の実施
 - ・「何が問題だったのか」「自分ならばどうするか」を問う授業
- (ウ) 各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫
 - ・教科の指導, 学校行事と道徳の授業を関連させた指導
- (エ) 全教育活動を通じて行う道徳教育の要となる道徳の時間の指導の工夫
 - ・児童の実態を踏まえた明確な指導観に基づく学習指導案の作成
 - ・「探究の対話」「書く活動」「事前読み」を取り入れた指導方法の工夫
- (オ) 「私たちの道徳」の効果的な活用の工夫
 - ・「書く活動」での「私たちの道徳」の活用
 - ・「探究の対話」の資料としての活用

(2) 具体的な研究活動

- (ア) 学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫
 - ・学校教育目標に基づいた道徳教育全体計画別葉の作成と実施
全教育活動を通じて行う道徳教育についての指導内容及び時期を明示し, 各教科等と道徳の授業との関連を図りながら道徳教育を円滑に進めるために別葉を作成した。また, その別葉全学年分を一枚の模造紙に張り出し, 職員室内に掲示した。職員は朱書きしながら, 進捗状況を確認した。
- (イ) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるいじめ問題への対応
 - ・「学校生活アンケート」の実施
毎月, 各学級でいじめに関わるアンケート「学校生活アンケート」を行い, 児童の状況把握に努め, 必要に応じて保護者や関係機関へ連絡した。また, 職員会議の際, 全教職員で共通理解を図った。
 - ・「何が問題だったのか」「自分ならばどうするか」を問う授業
道徳の授業は, 資料の内容理解をした上で, 「何が問題なのか」「自分ならばどうするか」等, 常に自分の事として考えさせるよう心掛けた。第4学年の教材「あの子」の授業では, 「うわさばなしを広げること」について考える授業を行った。
- (ウ) 各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫
 - ・教科等の指導, 学校行事と道徳の授業を関連させた指導
- ① 生活科との連携
低学年において, 道徳と生活科を関連させ指導した。道徳「おおきくなるまでに」で,

尊敬や感謝の心を学習し、そのことを生かし生活科「もうすぐ2年生」で保護者に向けて手紙を書かせた。他に「おもちゃフェスティバル」では、2年生は1年生の、1年生は幼稚園児の世話をすることを通し、親切や思いやりの心を深める体験的な実践を行った。また、アサガオやサツマイモの栽培学習を通して、自然愛護の心を育んできた。

② 総合的な学習の時間、音楽科、社会科、防災教育との連携

中学年において、音楽科、総合的な学習の時間と関連させ指導した。道徳「たった一つの命、つながる命」の学習と「市音楽祭」で取り組んだ合唱「ゆうき」の歌詞（「ひとりひとり ところにひとつぶ ゆうきをもって うまれてくる…」）の「ゆうき」とは何かを考えさせる学習を通し、生命を大切にすることを育んだ。また、道徳の「お世話になってます」の学習で、身近な人に対する感謝を学習し、学校行事「1/2成人式」では、これまでの成長を支えてくれた家族への感謝の心を深めた。さらに、社会科や防災教育と関連させ、命の尊さについて考える実践も行った。

③ 社会科、家庭科、総合的な学習の時間、行事との連携

高学年において、社会科、家庭科、総合的な学習の時間と関連させ指導した。道徳の「世界の人々とつながって」や家庭科で「衣服の着方、住まい方」を学習し、その後ユニクロ「服のチカラプロジェクト」に参加し、海外の子供たちのために子供服の回収を呼びかけることで、国際理解についての理解を深めた。また、「運動会」「竹馬大会」「色別大掃除」等の様々な縦割り活動を通して、下学年の世話をすることで、責任感や奉仕の心を育む実践を行った。

(エ) 全教育活動を通じて行う道徳教育の要となる道徳の時間の指導の工夫

・児童の実態を踏まえた明確な指導観に基づく学習指導案の作成

研究主題の「思いやり」「たくましさ」を受け、関連の深い重点内容「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」を中心に研究授業を実施した。また本校では、以下の流れでPDCAサイクルを生かして共同研究を実施してきた。

1.指導案作成	学年部で話し合って作成する。必要に応じて、学年部で先行授業や模擬授業を行い、実際の児童の反応などを想定し指導案を考える。
2.事前検討会	発問の流れや資料を提示するタイミングなど実際の授業を想定して、模擬授業形式で行う。スムーズに授業が進まなかった場面や、授業者が悩んでいるところを中心に検討する。この話し合いを踏まえ、学年部で指導案を修正する。
3.研究授業	研究授業は、全教職員が参観する。毎回、動画と文字で授業記録をとり、事後検討会時に活用する。
4.事後検討会	事後検討会は、複数のグループに分かれ「グループワーク形式」で行う。授業参観後に、視点について「成果」と「課題」を付箋に記入し、それを基に話し合い類型化してまとめ、代表者が発表し共有を図る。
5.学年部で話し合い	授業記録から児童の発言を比較検討し、児童の変容を考察し蓄積する。

・「探究の対話」「書く活動」「事前読み」を取り入れた指導方法の工夫

① 「探究の対話」での授業づくり

白石市の重点施策の一つである「探究の対話」を道徳の指導に取り入れた。「探究の対話」とは、「友達の考えを否定しない」「無理に話さなくてもよい」ルールの下、全員で円座になり、顔を見合わせて、安心して自分の考えを話したり、相手の考えを受け止めたり、疑問に思ったことを問い返したりできる話し合いのことである。本校では「自他との対話」を行う方法として取り組んだ。また、「探究の対話」では、教師はファシリテーターとなり、以下の点に気を付けながら児童と一緒に取り組んだ。

・児童相互の言葉をつなぐ役目を果たし、児童主体の交流の場をつくる。
・児童の意見から生じた小さな疑問を一つ一つ確認することで、全児童が同じ事を考えられる状態で思考できるようにする。
・児童の思考が、一般的な事柄から自分の事として深まるようにする。
・児童の意見を整理し、比較・分類することで話し合う観点を明確にする。
・児童から多面的な捉えを引き出し、一人一人の思考が多角的になるようにする。

② 「書く活動」の取組

授業展開に必ず「書く活動」を取り入れ、その時の自分の思いや考えをしっかりと持たせたり、児童自身が自己の変容や成長を実感させたりする手立てとした。また、本年度は、ワークシートを活用し、ファイルによる蓄積や壁面掲示による共有を図った。

③ 「事前読み」の取組

主に読み物資料で、資料の内容理解と課題意識を持たせることを目的に、家庭学習や朝学習の時間に資料の「事前読み」を行った。中・高学年ではこの「事前読み」の際に問題解決に繋がる「課題づくり」にも取り組んだ。

(オ) 「私たちの道徳」の効果的な活用の工夫

・「書く活動」での「私たちの道徳」の活用

「私たちの道徳」をワークシートの代わりに活用した。具体的には、「家族」について授業を通して学んだことを「私たちの道徳」に記入し、保護者に感想をいただいた。

- ・「探究の対話」の資料としての活用

高学年の「親切、思いやり」の内容項目の指導において、「相手の立場に立って」を資料として使用した。他に、授業のまとめの段階で、読み物資料を説話として活用した。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

(ア) 学校の道徳教育の重点目標に基づく全体計画の作成と実施に関わる工夫について

- 別葉を職員室に掲示し全教職員が進捗状況を把握することで道徳教育への意識が高まった。

(イ) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるいじめ問題への対応について

- いじめの問題を、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、話し合いを行う児童の姿が見られた。

(ウ) 各教科等の特質を生かした道徳教育の工夫について

- 行事等と関連させることで、実践的に体験し、道徳的価値の自覚を深めることができた。
- 各教科等と関連させるには、その教科等の前または後に行うのか、どの位の期間をあけ実施するのが有効なのか見通しを持って計画する必要があると感じた。

(エ) 全教育活動を通じて行う道徳教育の要となる道徳の時間の指導の工夫について

- 学年部で協働で指導案作成をすることで、複数の教師が児童の実態を捉えることができ、実態に合わせた発問や授業展開を考えることができた。

- 教師が道徳の時間以外の時間でも、児童の話を引き出し、相手の話をしっかりと聞く指導に繋がった。

- 「探究の対話」で話し合いの場を明確に位置付けることで、児童が話しやすい場を設定した。

- 授業の要として「探究の対話」を取り入れたことで、道徳的価値について、児童の主体的かつ多面的に捉え、多角的に考えを発表する姿が見られた。

- 授業中の発言量やワークシートの書き込みが劇的に増加し、本音で話す姿も見られた。

- 「書く活動」に取り組みせ、児童が自分の考えを明確に持って、主体的に対話に臨むことができた。また振り返りの場面で書かせることで、児童は授業中に考えたことを整理でき、教師は児童の成長の見取りができた。

- 考えは持てるが発言までに至らない児童には、書く活動は考えを表す貴重な機会となった。

- 「事前読み」をさせたことで、児童に資料の内容理解と課題意識を持たせることができた。

- また、中・高学年では「課題づくり」にも取り組んだことで、児童がより主体的に授業に参加するようになった。

- 低学年では書かせる内容や量について検討が必要である。

- ワークシートの壁面掲示による共有の方法は、人に見られることを意識してしまい、自分の考えを書く妨げとなる場合が見られた。新たな蓄積と共有の方法を検討する必要がある。

- 今後は「書く活動」を通して、次の学習への意欲へ繋がるような工夫が必要だと感じた。

- 「事前読み」は児童の読む力によって差が出てしまった。授業前段で、話の状況や登場人物をしっかりと押さえることや、教師がテーマを設定して課題づくりに取り組ませる等工夫が必要である。

(オ) 「私たちの道徳」の効果的な活用の工夫について

- 本年度、本校では、児童の記述を蓄積して評価を行ってきた。その際「私たちの道徳」は、ワークシートとして、またワークシート作成の参考として活用することができた。

4 今後の取組

- ・ 市で採択された道徳科の教科書に合わせ、本年度の取組を生かし、再度、学校と各学年部の重点目標及び重点内容項目との一貫性を持った道徳教育全体計画を作成する。特に、本年度、要として研究してきた「探究の対話」を取り入れた「考えを深める道徳の授業」を年間のどの時期に取り組みかを明確にする。

- ・ 「事前読み」は、話し合いの時間の確保と内容理解を目的として、よりよい取り組みせ方を検討する。

- ・ 新たな蓄積と共有の方法として、児童の「道徳ノート」づくりに取り組んでいく。さらに「道徳科」の評価の在り方についても検討を重ねていく。

- ・ 本年度の「事前読み」における「効果的な資料提示」や「探究の対話」を取り入れた「考えを深める道徳の授業」等の指導法の工夫を積み重ね、教材に合わせた授業展開（「探究の対話」「事前読み」「役割演技」等）の実践を蓄積する。

- ・ 郷土愛をより一層意識させるために「みやぎの先人集 未来への架け橋」の積極的な活用と地域教材の開発（大鷹沢出身の大横綱「大砲萬右衛門」）を進めていく。